

議員全員による行政視察

世界遺産 「富岡製糸場」 (群馬県富岡市)

8月27日(日)

齊藤議長ほか9人の議員が世界遺産の活用について、2014年に世界遺産に登録されて以来、注目を浴び続けている群馬県の「富岡製糸場」を視察した。



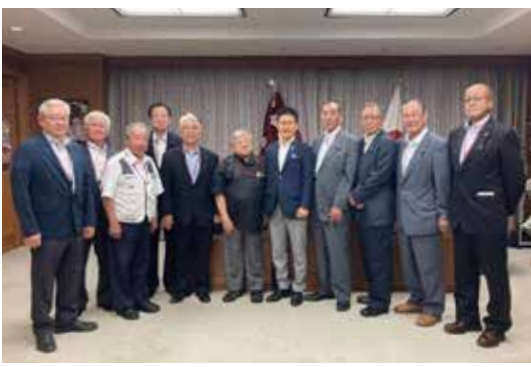
富岡製糸場は、明治政府によって建設された当時の姿のまま、ノスタルジックな建物が人気を誇っており、この日も猛暑日の暑さのなか次々と見学者が訪れていた。また、

富岡製糸場付近のカフェやお土産屋さんなども活気づいており、滞在型観光地の確立や回遊性の向上など、政策の提言・立案の参考となった。

木村前防衛大臣 政務官との意見交換 防衛省(東京都)

8月28日(月)

齊藤議長ほか9人の議員が防衛省の敷地内にある市ヶ谷記念館を視察し、その後、防衛省政務官室にて前防衛大臣政務官木村次郎衆議院議員との意見交換が行われ、国政や



政務官の業務、深浦町の現状と課題など多岐にわたり話し合った。

森が人をつなぐ町 (山形県最上町)

10月12日(木)

七戸副議長ほか7人の議員が、深浦町と人口規模と森林率が同じ規模の山形県最上町で行っている森林資源を活かした木質バイオマスエネルギーの利活用と人口減少対策について視察研修を行い、町への政策の提言・立案の参考となった。



脱炭素・森林資源を活用 (秋田県大仙市)

10月13日(金)

七戸副議長ほか7人の議員が、秋田県大仙市にある(株)大仙バイオマスエナジーで行っているバイオマス発電施設を視察した。ここでは、製材過程で出る端材や伐採現場の残材などを積極的に余すことなく焼却して、そこで発生した蒸気タービンを回し発電する取組を行っている。森林を有効活用することで、雇用の創出、エネルギーの提供、脱炭素、林業や地域の活性化など、町への政策の提言・立案の参考となった。



産業建設常任委員会視察

ナマコ種苗生産技術調査

11月1日(水)

岩手県洋野町にある(一社)岩手県栽培漁業協会種市事業所へ岩谷委員長ほか3人の委員に山本農林水産課長、工藤農林水産課長補佐が同行し、現在、北金ヶ沢漁業振興会を取り組んでいるナマコの人工種苗試験における飼育方法や原生動物による食害などの課題解決を目的に視察を行った。ナマコの種苗生産について



は、まず天然の親ナマコから採卵し、幼生飼育から30ミリメートルの稚ナマコになるまで育ててから出荷する過程や飼育に係る課題について竹高所長心得から説明をいただき、町への政策の提言・立案の参考となった。

ウニの蓄養 オンラインストア調査

11月2日(木)

岩手県大船渡市の東部にある綾里漁業協同組合で実施しているウニの蓄養について、岩谷委員長ほか3人の委員に山本農林水産課長、工藤農林水産課長補佐が同行して視察をした。和代表理事組合長、川上参事、佐々木総務課長から、ウニ蓄養事業と綾里産ウニのネット販売の説明を聞いた。このウニの蓄養は、岩手県の「黄金のウニ収益力向上推進事業」を令和2年度から

2年ほど受託し、磯焼けで海藻が不足し身入りが悪くなった「痩せウニ」を海中から採捕し、使われなくなったアワビの蓄養施設へ移して大きくさせて、更に24時間LEDライトを当て、成熟期(放精・放卵)を遅らせ、天然ウニの品薄期に高値の販売を行っており、町への政策の提言・立案の参考となった。



あおもりマッチング システム調査 (県こどもみらい課)

11月8日(水)

岩根委員長ほか3人の委員と斉藤議長が県こどもみらい課に赴き視察を行った。県担当者から青森県の少子化の現状、AIを活用したマッチングシステムの取組や課題、その他の子育て支援事業の説明をいただき、町への政策提言・立案の参考となった。



移住・交流 ポータルサイト調査 (県地域活力振興課)

11月9日(木)

岩根委員長ほか3人の委員と斉藤議長が県地域活力振興課に赴き視察を行った。県担当者から青森県を取り巻く環境(人口減少)の状況、人口減少対策(移住・若者の県内定着・還流)の取組や課題、その他の移住定住事業の説明をいただき、町への政策提言・立案の参考となった。



総務文教常任委員会視察